

春告草

第139号 平成31年4月24日 進路指導部発行

2019年度大学入試を振り返る(私立大学編)

いよいよ平成も残り一週間、今回が平成最後の春告草である。記念すべき号であるが、今年度の私大入試を振り返りたいと思います。

私大入試に関しては、3月頃から「私大入試混乱」「A判定なのに不合格次々」などの新聞見出しが目立つようになってきた。志願者数は昨年よりも増えているのに、合格者数は昨年を下回るなどの現象が首都圏私大で起きていた。これらは入学定員の厳格化の影響と考えられ、4月には「補欠発表 入学式の2日前」というショッキングな見出しも掲載された。今年の私大入試で何が起こっていたのかも含めて振り返ってみよう。

文工高・医療低 安全志向鮮明に

全国190大学の集計(3月8日現在 河合塾調べ)では、私立大学全体の志願者は昨年比 104.7%の増加となった。

右図は学部系統別志願動向を一般方式とセンター利用方式に分けて表したもので、数値は前年度入試に対する割合(%)である。長らく「文高理低」という言葉に象徴されるように文系に人気が集まる一方、理系不人気と言われていたが、AI、ICTなど情報系をはじめとする理工学系統の人気は復活した模様である。しかし、農学、医療系の志願者指数は私大全体の志願者指数を下回り、不人気が続いている。

また、早慶上理、MARCHクラスの大学では志願者を減らしたところが多かったが、中堅以下では志願者を増やした大学が多かった。女子大にも人気が集まり、本校生徒も意外と苦戦した。難関私大を志望する女子受験生の押さえとして女子大が選ばれた感が強い。本校生徒が多く受験する大学の状況をみていこう。

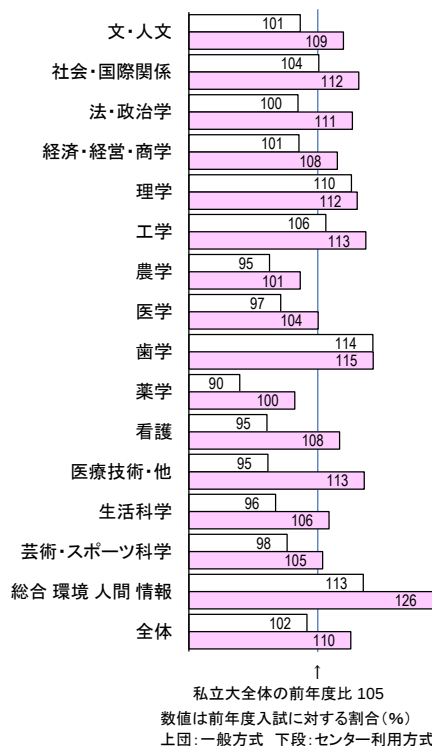
主要大学の状況

早稲田大学

昨年度、合格者を前年から約1割減らした影響から、今年度の志願者数は前年比 95.0%で4年ぶりの減少となった。方式別では一般方式で前年比 92.1%、センター方式で同 112.7%と対照的な結果である。国立難関大志願者がセンター方式で併願し、一般方式ではチャレンジ受験が減ったという構図なのか。センター方式は出願締め切りがセンター試験後だったことも増加要因となった。

学部別状況では、教育(前年比 84.1%)、社会科学(同 85.9%)で減少率が高い。教育は推薦入試の導入で一般入試の募集人員が700→560名(前年比 80.0%)に減少したことによるもので、志願倍率は逆に上昇した。次年度は狙い目か? 理工3学部は、いずれも志願者は減少し、3学部合計の志願者数はこの10年間で最少となった。一般方式で志願者減が目立つ中、文、文化構想学部で実施する英語4技能テスト利用型では増加、志願倍率は一般方式より高くなった。本校からは116名が受験し32名が合格した。(人数は延べ人数。以下同じ。)

私立大 学部系統別志願状況



私立大 大学グループ別志願状況

	一般方式	センター方式	合計
私大全体	102.1	110.3	104.7
早慶上理	94.1	117.2	97.4
MARCH	95.0	99.0	96.3
日東駒専	102.8	100.1	101.8

慶應義塾大学

早慶、いや塾関係者は「慶早」というが、本校から慶應を受験する生徒は早稲田に比べると少ない。入試問題との相性、イメージなど理由は不明であるが、授業料も決して高くはないし、奨学金制度も充実しているのでもっと積極的にチャレンジしてもよいのではないだろうか。

センター方式は実施せず、一般方式のみの学生募集を行っている。志願者は前年比 96.7%、2年連続の減少であるが、早稲田に比べて下げ幅は小さい。学部別では、医学部で昨年並、環境情報で増加した他は減少した。

減少率が高いのが、法(前年比 93.1%)、薬(同 91.2%)、看護医療(同 94.4%)の各学部で、薬は5年連続、看護医療は3年連続の志願者減である。理工は学部全体では前年比 95.5%と減少率が高いが、情報理工、管理工などの学門1・2で志願者増、学門3～5では減と動向が分かれた。特に、機械工、応用化学などの学門3・4はここ3年ほど志願者の減少が続いている。本校からは31名が受験し13名が合格した。

明治大学

かつてのバンカライメージは薄れ、女子学生にも高い人気を誇るが、大学全体の志願者数は前年比 92.9%でMARCHの中で最も減少率が高い。方式別でも一般方式 94.1%、センター方式 90.0%といずれも減少した。

学部別では、商、総合数理を除く全学部で志願者が減少した。総合数理の志願者増は、全学部統一入試(英語4技能4科目方式)の新規導入と昨年度入試の志願者減の反動によるものである。明治はこの他にも英語外部試験にかかわる入試変更が目立ち、国際日本、経営、農学部の全学部統一入試で英語外部試験の利用が可能になった。英検2級合格で個別試験の英語得点が8割に換算されるため、この入試区分では志願者は増えた。本校からは最多の122名が受験し54名が合格した。

上智大

昨年度入試で、志願者が増えたにも関わらず合格者数を約1千人減らしており(前年比 84.0%)受験生に警戒され、今年度入試では前年比 89.5%と大きく減少した。方式別では、TEAP利用型の減少率(同 86.3%)が高く、学科別(同 90.4%)以上に敬遠された。昨年度、志願者増加による難化の影響が大きかった。本校からは24名が受験し14名が合格した。

東京理科大

早慶上理グループの中では唯一増加した。平成5年に経営学部を創設し四半世紀経ったが、理工系単科大学のイメージはいまだに強い。大学全体の志願者数は前年比 107.1%。前年から約4千人増加した。方式別では一般方式が前年比 100.1%、センター方式で同 121.1%である。国立難関大受験者が併願する形でセンター利用で受験するケースが多いと思われる。

一般方式をさらに細かくみると、グローバル方式で前年比 129.7%と志願者を集めた一方、B方式では同 98.9%と減少した。センター方式ではA方式が前年比 114.4%、C方式(センター英語・国語利用)が同 157.3%となった。センター英語、国語の平均点が高かったことと出願締め切り日がセンター試験後であったこともあり、多くの志願者が集まった。

学部別では、経営、理、理工で増加した。特に経営は前年比 133.9%と大きく増加した。本校からは、48名が受験し22名が合格した。

中央大学

国際情報、国際経営の新設があった。両学部とも6千人を超える志願者を集め、MARCHの中では唯一志願増(前年比 104.6%)となった。志願倍率も国際情報44.2倍、国際経営28.8倍(いずれも一般方式)と高倍率になった。本校からは67名が受験し31名合格した。

主要私立大学 志願状況

大学名	一般方式	センター方式	合計	合格実績	
				受験	合格(入学)
早稲田	92.1	112.7	95.0	非 公 開	
慶應義塾	96.7	—	96.7		
上智	89.5	—	89.5		
東京理科	100.1	121.1	107.1		
学習院	93.6	—	93.6		
明治	94.1	90.0	92.9		
青山学院	92.8	108.2	96.0		
立教	95.3	96.6	95.8		
中央	103.8	105.7	104.6		
法政	92.0	98.8	94.2		
津田塾	106.9	107.3	107.1		
東京女子	93.3	100.2	96.6		
日本女子	116.9	133.4	124.3		

※合格実績は4期生の状況で既卒生を含まない

大学入試の基礎知識(第3回)

英語外部検定利用入試

新テストでの導入が注目されている英語検定。グローバル人材の育成を目的に、大学入学時における英語 4 技能を入学者選抜の資料とするものだが、既にグローバル入試、英語 4 技能テスト利用型入試などの名称で、英検やGTECなどのスコアを利用する大学入試が行われている。以前よりAOや推薦入試では利用されていたが、上智大学が日本英語検定協会と共同で開発したTEAP入試を平成27年度入試に初めて以来、一般入試でも利用されるようになってきた。今回は一般入試での外部検定の利用状況を見ていこう。

利用できる資格

今年度の一般入試で外部検定を採用した大学は昨年より35校増え、全国768大学の 24.3%にあたる187大学に上った。平成27年度より 5 年連続の増加の状態が続いている。187大学を設置者別に見ると、国立は 17 大学、公立は2大学、私立は168大学となっている。利用率は国立大 20.7%、私立大 28.5%と 20%を超えるが、公立大では 2.2%にとどまった。

利用できる検定の種類は各大学で定められているので、入試ガイドやホームページなどで調べよう。多くの大学が採用する汎用性の高い検定を受験するのがポイントとなる。今年度の一般入試における採用率は図に示したように英検が高い採用率を維持しているが、TEAPを採用する大学も増えてきた。ビジネス英語を測定するTOEIC、海外大学へ留学する際の英語力を測定するTOEFLなど、それぞれの検定の目的があるが、TEAPは大学入試用に開発された検定である。英検同様、日本の高校生が学校で学ぶ内容に沿って問題が作られているので無理なく準備、受験できるだろう。

利用方法

一般入試での利用方法で多いのは、①得点換算 ②出願資格 ③加点である。AO・推薦入試では出願資格としての利用が多いが、一般入試では全体の 5 分の 1 程度。得点換算や加点といった、直接得点に結びつけるケースが多い。

① 得点換算

検定のスコアによって、特定の試験科目の点数に代えて計算するもの。英検 2 級なら 80 点、準 1 級なら 90 点など段階別に換算する場合も多い。

明治大・経営の全学部統一入試では、英検準 1 級以上で英語が 150 点(満点)に換算され、2 級は 120 点、135 点(点数の違いは CSE のスコアによるもの)に換算される。「国語」と「地歴公民または数学」の得点(各 100 点)と、受験生の英語レベルに応じた「換算点」で合否が判定される仕組みだ。

② 出願資格

東京海洋大・海洋生命科学、海洋資源環境では、平成28年度入試より英検準 2 級以上、TEAP160 点以上などの条件を出願要件としている。昨年度入試までは経過措置があったが、今年度入試からはこの経過措置が撤廃され、志願状況に影響があったことは、第138号で記載したとおりである。

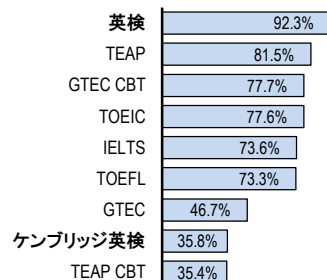
早稲田大・文化構想、文の英語 4 技能テスト利用型入試では、英検 CSE2.0 スコアが 2200 点以上である。英語の試験はなく、国語と日本史 or 世界史の得点で合否判定が行われる。

③ 加 点

資格・検定試験の級やスコアによって、主に外国語などの大学独自の試験の得点に加点するもの。得点換算と同様、段階別に加点することが多い。持っている級やスコアが高ければ、高得点も期待できる。

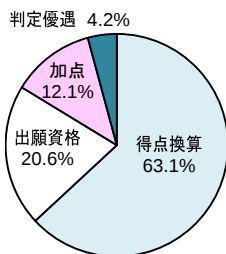
千葉大・理・物理は英検準 1 級以上で、個別試験の外国語の得点に 10 点加算されるシステムだ。

外部検定採用率(一般入試)



各大学で外部検定を利用している入試方式を 100 とし、それぞれの外部検定が採用されている割合を算出

外部検定利用方法

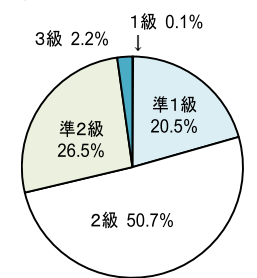


求められる英語レベル

一般入試の外部検定で求められているレベルを英検にあてはめて集計したのが右のグラフである。英検準2級レベル以上の英語力が求められていると言ってもよいと思うが、できれば準1級を目指したいところである。各大学とも「得点換算」や「加点」で英語力の高い受験生を優遇、選抜したいという意図で実施している入試方式である。積極的にチャレンジしてみよう。

また、外部検定を利用した入試を学問系統別に集計すると、意外なことに工学系統での実施が多い。外国語学、国際系統で高い英語力が求められるのは当然としても、工学系統、経済・経営・商学系統での利用数はこれらを上回るというデータもある。以前、東工大の説明会で、英語での論文作成に必要な英語力を診断するテストを行っているとの説明を思い出したが、卒業後の実務や研究を行う上で、英語力が重要なスキルと考えられているのだ。

外部検定入試で求められる英語レベル



新テストの基礎知識（第2回）

新テスト英語対策 何が変わる？ 準備はどうする？

新テスト「大学入学共通テスト」の大きな改訂ポイントは、英語外部検定の必須化、国語と数学に記述式問題が導入されることである。この2つは新聞記事などで取り上げられることも多いが、従来のマーク式問題も新しい学力観(第137号大学入試の基礎知識(第1回)参照)に基づいて新しい形式に改められる。

英語の筆記問題とリスニング問題に焦点を当ててみたい。

科目名は英語（筆記）から英語（リーディング）へ

名称が英語(筆記)から英語(リーディング)へ改められる。表は今年度のセンター試験と昨年度行われた試行調査の問題の比較であるが、現行のセンター試験が文法・語法や発音・アクセント問題を含む総合問題であるのに対し、新テストでは全問題が読解問題となる。問題文も英文で書かれていて、リーディングに特化した問題構成となる。単語数も約900語増えていて、速読力が求められる試験となる。

一方、リスニングは、試験時間に変更はないが、単語数が500語ほど増える。問題数に変更はないので、従来2回くり返されていた音声は1回だけになるなどの変更が予想される。配点も50点から100点になるなど、リスニングを重視した改訂となる。

新テスト、センター試験 英語試験の比較

科目名		新テスト	センターテスト
英語	名称	英語(リーディング)	英語(筆記)
	内容	全6問 読解 問題文も英文	・発音・アクセント ・文法・語法、整序英作文、英文完成 ・不要文選択、内容要約 ・図表を含む読解 ・読解(物語文) ・読解(論説文)
	配点	100点	200点
	時間	80分	80分
リスニング	配点	100点	50点
	時間	30分	30分

音声に反応できる英語力をつける

現行のセンター英語で出題されていた文法・語法問題は、新テストでは単独に出題されることはなさそうだが、リスニング問題の中で文法問題が出題される見込みである。試行調査2017年の問題1では、(音声) "The man is going to have his house painted." にふさわしい絵を選択する問題が出題されている。英単語、フレーズを視覚だけでなく、音声で覚える必要があるだろう。難易についても、現行のリスニング問題より確実に上がり、英検準1級レベルの力が必要だとの指摘がある。

